

## 4月 HUG だより

情報提供者 やましろ小児科 山城 武夫

4月のテーマ：登園・登校とお休みの判断について

4月になり、入園、進級、小学入学、進級子どもたちにとって新しい先生、お友達と慣れるまで緊張と、時間がかかります。親御さんは園に早く慣れさせるために少々体調がすぐれなくても、前日発熱しても今朝は平熱だからと無理をして登園させたいお気持ちを持たれます。

まず、感染症については原則、他者に感染をさせない。即ち、うつさない状態はウイルスなり、細菌なりが排出していない状態が良いのです（例えばインフルエンザであれば合併症がなければ、発症後5日、かつ、解熱後2日、幼児は3日経過すれば登園登校可能です）。

各疾患の出席停止期間の一覧表は日本学校保健会「学校感染症と出席停止期間」にありますし、日本小児科学会のホームページから「学校、幼稚園、保育所において予防すべき感染症の解説」から個々の病気の解説欄に記載されていますので、お休みの判断の参考にしてください。（参考として、日本学校保健会「学校感染症と出席停止期間」を紹介しておきます。[学校保健 311号別刷 B表 \(hokenkai.or.jp\)](http://hokenkai.or.jp)）

私はHUGだよりの3月のメッセージとして「お母さん、お父さんの五感を育児にはたらかせてください」と書いてきましたが、「この元気さは何時ものと違う主治さんに相談しよう。」「便の状態は硬さ、色、匂いが気になる。やはり食事制限、食事療法をする必要があると思われるときには登園を差し控えよう。」という判断は普段からのお子さまの状態観察、状況判断によるところが大いにあります。

乳幼児は脱水症に陥りやすいです。嘔吐、下痢、食事を摂らない時など注意しましょう。

手の甲の皮膚をつまみ、はなしても戻るのに3秒以上かかる、指の爪を強めにつまみ指が白くなった状態から、はなしてももとのピンク色に戻るのに3秒以上かかる時や乳児の大泉門が何時もと違いへこんでいる時などは脱水の状態があると考えましょう（ユーチューブなどで勉強しておきましょう）。

感染症でも適当な処置、対処方法で登校、登園が可能な場合があります。例えば、手足口病、伝染性紅斑（リンゴ病）、あたまじらみ、伝染性軟属腫（みずいぼ）、伝染性膿痂疹（とびひ）などですが、主治医の先生のご意見を伺いましょう。

私は病気の時はお早めに休み、長めに休みましょうと指導していますが、昨今の状況判断は困難な場合が多くあります。また、地域の医療状況、考えも反映されますし、園長、校長の考えも反映されます。自己を守り、他者をいたわる考えを持ちましょう。



また、当施設の「津病後保育室 HUG」は病後（病気の回復期）の子どもを保育者が家庭で保育できない場合に、看護師と保育士がお預かりします。

## 学校感染症と出席停止の基準

分類	病名	出席停止の基準	
<b>第1種</b>	(※)	治癒するまで	
<b>第2種</b>	インフルエンザ	発症後5日、かつ、解熱後2日(幼児3日)が経過するまで	
	百日咳	特有の咳が消失するまで、または、5日間の適正な抗菌剤による治療が終了するまで	
	麻疹(はしか)	解熱した後3日を経過するまで	
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後5日間を経過し、かつ、全身状態が良好となるまで	
	風しん	発疹が消失するまで	
	水痘(みずぼうそう)	すべての発疹が痂皮化するまで	
	咽頭結膜熱	主要症状が消失した後2日を経過するまで	
	結核	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで	
<b>第3種</b>	髄膜炎菌性髄膜炎	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで	
	コレラ	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで	
	細菌性赤痢	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで	
	腸管出血性大腸菌感染症	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで	
	腸チフス	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで	
	パラチフス	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで	
	流行性角結膜炎	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで	
	急性出血性結膜炎	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで	
	その他の感染症	溶連菌感染症	適正な抗菌剤治療開始後24時間を経て全身状態が良ければ登校可能
		ウイルス性肝炎	A型・E型:肝機能正常化後登校可能 B型・C型:出席停止不要
		手足口病	発熱や喉頭・口腔の水疱・潰瘍を伴う急性期は出席停止、治癒期は全身状態が改善すれば登校可
		伝染性紅斑	発疹(リンゴ病)のみで全身状態が良ければ登校可能
		ヘルパンギーナ	発熱や喉頭・口腔の水疱・潰瘍を伴う急性期は出席停止、治癒期は全身状態が改善すれば登校可
		マイコプラズマ感染症	急性期は出席停止、全身状態が良ければ登校可能
		感染性胃腸炎 (流行性嘔吐下痢症)	下痢・嘔吐症状が軽快し、全身状態が改善されれば登校可能
アタマジラミ		出席可能(タオル、櫛、ブラシの共用は避ける)	
伝染性軟属腫(水いぼ)		出席可能(多発発疹者はプールでのビート板の共用は避ける)	
伝染性膿痂疹(とびひ)		出席可能(プール、入浴は避ける)	

※第1種学校感染症:エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ベスト、マールブルグ熱、ラッサ熱、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(SARS)、急性灰白髄炎(ポリオ)、鳥インフルエンザ(H5N1)など

(裏:広告面)